

会津若松市

# 農業委員会だより

令和6年1月

## =第67号=

編集発行  
会津若松市農業委員会  
TEL 23-9371  
FAX 23-9374

### (会津若松市農業の概要)

(資料:2020年農林業センサスより)

・農家戸数 1,718戸

・農家人口 6,678人

・経営耕地面積 6,642ha (田6,019ha・畑463ha・樹園地160ha)

## 去年よりおいしいシイタケを目指して



- 新年のごあいさつ ..... 2
- 令和6年度農地等利用最適化推進施策の改善に関する意見書を市長に提出しました ..... 3
- 農業委員会活動報告 ..... 4~5
- ちょっとおじやまいたします ..... 6~7

### 主な内容

- 声の広場  
未来の農業を担うぼくの目、わたしの目 ..... 8~9
- “地域計画”の策定に向けて ..... 10
- 新規就農者との対談 ..... 11
- お知らせ、編集後記 ..... 12



## 地域農業の振興に向けて

会津若松市農業委員会会長



渡 部 政 美

新年、明けましておめでとうございます。  
皆様方におかれましては、健やかに新春を迎えられましたこと心よりお慶び申し上げます。また、日頃より農業委員会の活動に対しましてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。  
とりわけ、昨年7月、各区長様はもとより各種団体の皆様のご協力をいただきながら新たな農業委員・農地利用最適化推進委員が選任され、第25期目の新体制が円滑にスタートできましたこと、重ねて感謝申し上げる次第であります。



会津若松市長

室 井 照 平

## 活力ある農業・農村の実現に向けて

# 新年のごあいさつ

明けましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日ごろより本市農業の振興をはじめ、市政発展にご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

本市農業・農村を取り巻く環境は、農業従事者の高齢化や担い手の減少、農村コミュニティ活動の低下など、依然として厳しい状況が続いております。加えて、昨年の猛暑による高温障害や先の見通せない農業資材・肥料等の価格高騰は、農業者の皆様の営農活動に様々な影響を与えているものと憂慮しているところであります。

このような中、市におきましては、農業生産資材や畜産飼料高騰への独自の緊急対策事業を実施するとともに、振興作物の生産拡大に向けた支援や、農作物の収量増加と品質向上・作業の効率化を図るICTを活用したスマート農業の推進、「あいづ食の陣」や地産地消推進事業による会津産農産物のブランド化などに継続して取り組んでいるところであります。

また、各関係機関と連携して認定農業者や新規就農者に対する各種相談・支援を行い、令和5年度からは、市独自の支援策として移住就農者を対象とした「未来ファーマースタート支援事業」を創設し、地域の担い手として期待される多様な人材の確保に努めております。

今後も、農業所得の向上と活力ある地域農業の実現に向けて、引き続き各種施策を推進するとともに、将来に渡り地域農業と農地を守るために、農業委員会の皆様とより一層連携を深めながら「地域計画」策定への取り組みを進めてまいりたいと考えております。

結びに、皆様のご健勝とご多幸を心から祈念し、新年のごあいさつといたします。

一方、ウクライナ情勢の長期化などにより燃料や農業生産資材等の価格が高止まりしていることに加え、特に、令和5年産米については、記録的な猛暑による高温障害の影響により、一等米比率が大きく低下するなど、農業者の皆様は大きな経営リスクに直面しています。

特に、地域農業の将来像を示す「地域計画」の策定にあたりましては、市農政部との連携、さらには地域の皆様方との十分な話し合いを通して、地域農業の振興につながるよう努めてまいりますので、ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。

結びに、皆様方のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

「令和6年度 農地等利用最適化推進施策の改善に関する意見書」を市長に提出しました

令和5年11月13日、室井照平  
会津若松市長に対して、「令和  
6年度農地等利用最適化推進  
施策の改善に関する意見書」を  
提出しました。その概要は次の  
とおりです。

## 一、扱い手への農地利用の集積・集約化

① 地域計画の策定に向けた目的や必要性の周知などの取組を積極的に進めること。

② 策定にあたって、地域のまとめ役となる人材の確保・育成を行い、確保できない地域への支援について十分に意を用いること。

③ 農業者の意向把握や目標地図の素案作成など、適切な役割分担の下、十分な体制の確保を図ること。

④ 策定が困難な地域においては、農業者に不利益が生じないよう国・県に対しても要請すること。

## (1) 遊休農地の発生防止・解消

## 二、遊休農地の発生防止・解消

② 研修の受け入れ先となる農業者を確保すること。  
③ 新規就農者育成総合対策事業の確実性と安定性を図るよう国に要請し、「地域計画」の策定が困難な地域においても、事業を利用する新規就農者が見込まれることから、

### 三・新規参入の促進

の見直しを国・県に対しても要請すること。

① 国に対しても責任を持つて新たな事業展開を行うよう、県に対しでは、遊休農地等保全対策支援事業」について、より活用しやすい制度とするよう要請すること。

② 市は借り手が遊休農地を解消した場合の補助金の交付等、実用性の高い独自の対策事業の創設を図ること。

(2) 多面的機能支払交付金等

多面的機能支払交付金や中山間地域等直接支払交付金等は、農地の保全管理や遊休農地対策等の農村集落の維持発展に有効であることから、制度の活用が積極的に図られるよう、交付単価の充実等、所要

### (3) 法人化の推進

集落営農組織については、効率的・安定的な経営体として永続性を確保する観点から、法人化に向けた集落内の合意形成のための継続的な支援を行うこと。

(1) 農業資材等の高騰への支援  
ウクライナ情勢の長期化等により、農業生産資材価格の高騰が続いている、高騰分への十分な補助金等の支援策や価格低減策を講ずるよう国・県に対して要請すること。

水田活用の直接支払交付金の見直しに伴い、令和4年から8年の5年間に一度も水張りをしない水田については、令和9年度以降、交付対象から除外することとされたが、農業経営の影響だけでなく、転作の定着及び地域特産物の創出に取り組

①(2) 多様な扱い手の確保・育成  
様々な法律の改正等により、認  
採択要件を緩和するよう国に対し  
て要請すること。

んできた農業者の努力を無にするものであり、実態を踏まえた制度運用とするよう国に対して要請すること。

### (3) 有害鳥獣被害対策

イノシシ、クマ等の野生動物の個体数増加に伴う人身事故や食害による農作物への被害増大は、當農意欲の減退による農地の遊休化が懸念されることから、電気柵や捕獲などの設置等に要する経費への支援を拡充すること。

また、新たに整備された会津総合射撃場を効果的に活用し、有害鳥獣駆除に関する対策実施隊員等の射撃技術の向上を促し、人材の確保・育成を推進すること。

### (4) セーフティネットの充実

経営安定に向けたナラシ対策、共済制度、収入保険など、収入の減少を極力抑えるための対策を充実させるとともに、すべての農業者が加入できるような総合的なセーフティネットのあり方を検証し、必要な対策を講ずるよう国に対して要請すること。

とりわけ、令和5年度産米については、記録的な猛暑による高温障害の影響により例年と比べ一等米比率が低下しており、資材や燃料代の高騰とあいまって等級による価格差からの収入減は大きな経営リスクとなつていていることから、制度の網から漏れてしまう農業者に係るセーフティネットの更なる強化について、国に対しても要請すること。

### (5) 情報化推進に係る予算の確保

農林水産省では、地理情報共通管理システム(eMAFF地図)を開発し、全国農業会議所においても、eMAFF地図と連携する農業委員会サポートシステムを稼働させており、これらのシステムの構築によって、農業委員による現地確認作業や、地域農業の話し合い(地域計画の策定支援)への活用など、業務の効率化・省力化が図られている。

当市農業委員会においても、地域計画の策定・変更等を効率的に行うために、正確な農地台帳とデジタル地図の有効活用が必要不可欠であることから、市内6区域、13班、37名の農業委員と最適化推進委員が円滑に活用できるよう、デジタル機器の導入に係る予算を措置すること。



## 農地利用状況 調査報告

室野井 建  
遊休農地対策部長

令和5年8月から9月のはじめにかけて、各地区農業委員及び農地最適化推進委員による農地利用状況調査を実施しました。

この調査は、遊休農地の現状を把握するとともに、所有者に対して、農地の利用に係る意向調査を行いながら、遊休農地の解消を図ることを目的としております。

今年も田畠一筆ごとに調査し判定を行いました。遊休区分は、1号(雑草の繁茂の状態で再生利用が可能な農地 Aa, Ab)、2号(農業上の利用の程度が周辺に比べ著しく劣っている農地で、その一部を耕作し、残地が遊休状態の農地)、B(再生利用

# 農業委員会活動報告



が困難と見込まれる農地)です。調査結果については、田で193筆約16.3ha・畠で292筆約16.5ha、合計485筆32.8haとなっています。一定程度解消された農地もありますが、新たに発生・発見され年々増加している状況にあります。

農業を取り巻く現状は厳しいものがありますが、各委員の皆様には、遊休農地の解消に向け、よろしくお願いします。

## 新規就農者への 支援活動

利用集積推進部長

渡邊 直也

## 令和5年度 県下農業委員会大会

総務部長

渡部 政治

昨今、後継者不足や労働者不足が全国的に顕著ですが、当市においても例外ではありません。こうした中、当農業委員会でも新規就農者の参入促進や新たな労働力確保に向けた取組を行っています。

年齢制限などの条件はあります

が、就農準備から経営開始まで最

大5年間に渡り資金を給付する制

度があります。新規就農にあたっては、まず5年後までの就農計画を立てる、審査後、新規就農者として認定されます。その後は担当農業委員や県市、農政課、農協などでサポートチームを立ち上げ、こまめに訪問しながら技術的な指導や相談を受けています。さらに就農から3年目には中間審査会を開き、計画通りに規模の拡大や売上を計上しているか、積極的に技術の習得に努めているかなどの聞き取りを行い、自信をもつて営農できるようアドバイスしています。

今後も新たな担い手が参入しやすい環境づくりに努めてまいります。

令和5年11月9日、福島市パルセ飯坂で開催された大会は、コロナ5類移行に伴い、3年ぶりに参加制限が解除され、本市から27名、全体で930名の出席で行われました。

主催者の挨拶、来賓の祝辞に続いて、永年勤続の表彰があり本市からは8名が受賞しました。

また情報紙コンクールの部門では、本市農業委員会は「全国農業会議所会長賞」を受賞することができます。

続いて福島大学食農学類原田英美教授による記念講演が行われた後、本県農業の発展に関する要請について、内容の報告がありました。

最後に、農業委員会活動強化に関する申し合わせについての決議を行い、閉会しました。

今回の大会を通して、参加した農業委員・推進委員の農業に対する考え方方がより深まつたと感じます。

今後もこうした大会に参加したり研修を企画、受講したりしながら、本市農業委員の資質向上に努めてまいります。

## 農業体験講師

広報部員

田代 新一

令和5年9月19日火曜日、夏の強い日差しの残る午前10時。大戸小学校5・6年生15名による総合学習「稲刈り」に参加しました。小学校から200mほど南にある、地元で元農業委員の大竹健司さんから借りた5aの田んぼ。春に「コガネモチ」を植えてから早や4か月。暑さに負けず、しっかりと稲穂をつけています。



大竹さんから作業上の注意を受けてから刈り取り開始。子どもたちが稻刈り鎌の扱いにもすぐ慣れ、刈り取り、稻運びと協力してスマーズに進め、1時間ほどで終了することができました。

作柄は例年通りの300kg近い収穫となり、子どもたちは自分たちで育てた稲の出来栄えにとても満足した様子でした。

しかし一方で、「農家の方々と同じように育ってくれない」と、農作物を育てるこの厳しさ・大変さを実感していたようです。今後も、農業委員はもちろん、学校運営協議会、公民館、地域の方々とも協力し、地域全体の活動として意義あるものとしていきたいと思います。

# ちょっと おじやま いたします

会津若松で農作物の二次加工を行っている方にお話を伺いました。

## もちはもちや

武田 久美子さん



河東町金田の水稻農家、武田久美子さんが営んでいる「もちはもちや」さんは、自家栽培のうるち米やもち米を、凍みもちやかりんなどに加工して、イベント等の際に販売を行う6次化の事業を展開しています。

こうした取組をはじめたきっかけは「丹精こめて作ったお米をもっと多くの人に触れてもらいたい」という思いと「販売されず

に処分してしまうお米をどうにかできないか」という思いから。加工方法や種類などを考えた結果、作ることになったのは昔からなじみ深く、やさしい味の凍みもちと、かりんとう。

凍みもちは、会津をはじめとする東北や信州の農村で冬の厳しい寒さと乾燥した気候を利用して作られてきた伝統的な保存食。凍結・乾燥の手間を1か月ほど経た餅はそのままでは固くて食べられないため、武田さんは油で揚げ、砂糖醤油に浸して、パックに詰めて販売しています。甘辛いタレと、しつとりしながらも軽い食感の凍みもちとの相性はとてもよく、お客様からも好評だそうです。

かりんとうは、小麦粉を砂糖や水などを練り合わせて作るのが一般的ですが、稻作中心の農村では、米粉を入れて作ったかりんとうを間食として食べてきました。米粉を中心に、もち粉、小麦粉、砂糖などを入れた生地を板

状に伸ばして油で揚げています。おだやかな甘みと、絶妙な歯ごたえが特徴的なかりんとうは、リピーターも多いとのこと。ただ、こうした販売活動を農業と並行しながら行うのは大変では?と、お聞きしたところ、「大変ですけど、家族やまわりの人の支えもあるから続けられているので、本当に感謝しています」と話してくれた武田さん。商品を買ってくださった人たちから「また買うね」と言われるたびに、ずっと続けていきたいと思う気持ちが、6次化を行う原動力になつているとのことでした。



## 農家民宿 穂多瑠

高津 志津子さん



北会津町石原で農家民宿を営む高津志津子さん。畑では季節に応じて、キュウリ、ナス、タマネギなどの様々な野菜を育てており、その畑で採れた新鮮な野菜を民宿の食事で提供しています。その中でも、際立って珍しい作物が「ガーデンハツクルベリー」。

なぜ、そのまま食べられず、手間ひまのかかる野菜を作ろうとしたのかお聞きしたところ、「最

4月中旬に種を蒔き、5月に定植。それから順調に生育が進むと、夏頃にトマトに似た緑色の小さな実をたくさんつけ、秋口にかけて熟します。すると今度は、ナスのような黒紫色になり、ブルーベリーより一回り大きいくらいに成長します。そして10月末から11月中旬にかけて収穫をして、ジャムにします。

「そのままでは食べられないのよ」と教えてくれる高津さん。

ガーデンハツクルベリーにはジヤガイモが緑色になってしまつた部分と同じソラニンという毒

素が含まれていて、加工の際には重曹を入れたお湯で二回下茹でをしてアクリ抜きを行っているそ

う。こうすることで完全に有毒物質が抜けるのと同時に、独特のにおいやえぐみも抑えられ、加工した際によりおいしくなることがあります。

なぜ、そのまま食べられず、手間ひまのかかる野菜を作ろうとしたのかお聞きしたところ、「最

される方もいらっしゃるかも知れませんが、実は「ガーデンハツクルベリー」とはナス科の一年草、つまり野菜なのです。

初にこのジャムを見たとき、素材が出す鮮やかな紫色が忘れられなくて、これを自分で育てて加工して、お客様にお出ししたかったのです」と答えてくださいました。

野菜そのものの、素材の味を楽しんでもらいたいという思いでできたジャムは、本当にきれいな紫色をしていて、柔らかな甘みと酸味が調和されてとてもおいしいと評判です。

これからも忙しいことや大変なことがあつたとしても、丁寧に野菜作り、加工、提供まで行いました。



会津若松市では6次産業化に取り組む農業者への様々な支援があります

農業の6次産業化とは、第1次産業としての「農業」、第2次産業としての「加工・製造業」、第3次産業としての「小売業」との総合的かつ一体的な推進を図り、農村の豊かな地域資源を活用し新たな付加価値を生み出す取り組みのことです。

市では、6次産業化に取り組む農業者を支援するため、食品加工技術、農商工連携や販路拡大に詳しい専門家が無料で個別相談に応じる「地域農業6次化コーディネート」を行っています。

これから6次化商品づくりに挑戦したい方も、既に取り組んでいる方も活用できます。

ほかにも、6次化商品の販売力向上支援のため、県内のイベント等に出店し、消費者ニーズの把握や効果的な販売方法等について学ぶ「チャレンジ販売」や加工用機械の導入支援を行っています。

また、冬には6次産業化に関するセミナーの開催を予定しています。ホームページ等でもご案内します。ぜひご参加ください。

【問合せ及びお申込み先】  
農政課 ☎ 0242-23-9973

## 声の 広場

# 未来の農業を担う ぼくの目、わたしの目

ぼくの祖父母は、毎年、春の雪解けから冬の積雪まで、いろいろな野菜を作っています。ぼくは、以前、野菜作りは簡単なことだと思っていました。種をまいて、水やりをしていれば勝手にできるものだと思っていました。

でも、今年、祖父母の手伝いをしたら、あることに気がつきました。草むしり、温度の調整、病気や害虫、けものなどの対策・・・他にもいろいろなことに気をつけなければならぬことがあります。



## 祖父母の 野菜作り



湊小学校6年生  
わたなべ せい  
渡部 晴さん

祖父母は、もう六十才をとっくに超えているのに、毎朝早起きして、野菜の世話をなど大変な作業をずっと続けていることも分かりました。そして、祖父母が苦労しながら、一生懸命育てた野菜は、とてもおいしい

ことにも気がつきました。ぼく達のために、おいしい野菜を作ってくれていることに感謝しながら、これからは、自分から進んで手伝いをしたり、野菜を残さず食べたりしたいです。

ぼくたちは、総合の学習で田植と稻刈りの二つの農業体験を行いました。この体験を通して、様々なことを学びました。

その中で最も心に残ったのは、農業の大変さです。五月の田植では一つ一つ手で長さを測って植えていくので、思わず指を痛めそうになってしまいました。また、黄金色の中でやる稻刈りでは、一束ずつ鎌で刈っていくので、とても力が必要で、終わるころにはうでがへとへとになっていました。改めて農家さんの苦労

## 農業体験を 終えて



河東学園5年生  
ふるかわ れあ  
古川 玲旺さん

を知りました。

しかし、みんなで協力して取り組めた農業体験は、とても有意義で楽しい時間になりました。こんなに楽しいのだから、やりたいと思う人も多いだろうとぼくは思いました。しかし、そんなことはありませんでした。しらべてみると、近年、農業人口が減りつつあることを知りました。ぼくはそれを知り、少し悲しくなりました。そして、会津の農業のことを見んにより知つてほしいとあもいました。

「米どころ、会津」そう言われた会津の米のよさを、日本中、世界中に伝え、一人でも多くの人に興味を持つてもらえるように、できるいことを考え、取り組んでいきたいと思います。

## 農家を増やすために



大戸中学校1年生  
ごやま つかさ  
小山 司さん

僕の将来の夢は、美味しい野菜を育てる農家になることです。なぜなら、食糧難になつた時に役立つと思うからです。

我が家は農家をしているため、野菜の収穫や田植えなどの手伝いを三歳頃からしてきました。その頃は、ヤーコンの入った箱が重くて持てませんでした。五歳頃に箱を持つことができるようになり、嬉しかつたことを覚えていま

る意識をもつと高めたいと思うようになりました。福島の農家の数は年々減少しており、二〇〇〇年に約八万五千戸だったのに對し、二〇二〇年には約四万千戸になつてることが分かりました。そして、福島だけでなく、日本全体の農家が減つているのです。

農家を増やすために、僕は農家の良い面を中心に、農家がどんな職業なのかを伝えることが大事だと考えるようになりました。これから先、僕は積極的にたくさんの人々がいる場所で農家の良さを伝え、農業を広めていきたいと思います。



家の農業体験を通して、僕は人々の農業に対する

▲ 小学校児童による稻刈り  
体験学習風景



## 農業体験応援します！

農業委員会では、学校の総合学習の一環として実施される野菜作りや田植などの農業体験の協力・指導等も行っています。

# “地域計画”の策定に向けて

## 「地域計画」ってなあに？

地域の農業を維持していくために、地域の皆さんで農業のあり方について話し合い  
10年後の地域農業について、どのようにしていきたいかということを決める  
みんなで作りあげていく、地域農業の未来設計図のことなんです。



前も実質化された人・農地プランというものがあったけど、  
何が変わったの？



目標地図の作成や地区の担い手の考え方など、変更点を下記に  
まとめましたので、参考にしてください！

実質化された人・農地プラン		地域計画	【ポイント】
目的	・中心経営体に農地を集約していく将来方針	・地域農業の将来の在り方を位置づける計画 +目標地図の作成	★令和7年3月末までに市内の全ての農業地区で地域計画を策定することが求められています。
担い手	・認定農業者や認定新規就農者などの中心経営体	・中心経営体 +新規も含む多様な農業者 +委託を受けて農作業を行う者	★国等の補助金（農業機械や施設の購入補助、新規就農者への補助等）を活用するには「地域計画」を策定することが採択要件の1つとなっています。
目指す	・アンケート等に基づき、中心経営体に農地を集積していく将来の方針を文章化	・農業を担う者ごとに、利用する農地を目標地図に示す	★策定期限以降については、相対での利用権設定ができないになります。（農地中間管理機構を通した貸借へ移行） ★策定に向けて、早めに話し合いの場を設けましょう！



機構集積協力金の採択や、国等の補助金の活用に際しても、  
地域計画が必要になったんだね



そうなんです、そのためにも地域計画の策定に向けて、地域での  
話し合いを進めませんか？ご連絡をお待ちしております！

## 【新規就農者との対談】

今回、渡部政美農業委員会会長と対談したのは、北会津町で菌床シイタケの栽培をされている石井達也さんです。就農して5年が経過した現在の心境などを伺いました。

### ●就農したきっかけは何ですか？

**A** 実家が水稻農家で手伝いなどをしていたこともあり、農業に携わる仕事をしたいと思ってはいたのですが、最初は農業以外の仕事をしていました。

### ●どのようにして農業に転身を？

**A** 最初の仕事は車両整備関係の仕事でしたが、実家の手伝いをするために会社を休ませてもらいながら働いていました。会社の方々はとても優しく、休ませていただいているのですが、徐々に迷惑をかけていることが申し訳なくなり退職をすることにしました。

次の就職先を探している中で農業に対する思いが強くなり、就職して、実家の手伝いで休ませても

自分で農業を始めようと決意し、就農しました。

### ●なぜ菌床シイタケを選んだのか？

**A** 自分がシイタケを好きだということが理由ですね。開始するにあたって、周囲からはトマトやアスパラガスといった高収益の作物を勧められたこともあったのです

が、せっかく新しく農業を始めるのだから、他の農家さんがやらな

いようなもので、自分の好きなものを選ぼうと思ったら自然と菌床シイタケを選んでいました。

### ●栽培技術に対するサポートは？

**A** 周囲の人でシイタケをやっている農家さんは多くなかつたので、菌床シイタケ栽培の企業さんから

職員の方を派遣していただいたらオンラインで指導していただきました。また、その企業さんが運営している生産協議会にも所属し、県内の菌床シイタケ農家の方々からアドバイスをもらっています。

### ●就農から5年経過しましたが、慣れましたか？

**A** まだ満足はしていないのですが、作業全体の流れはわかるようになつてきましたし、慣れてきたと思います。初年度と比較すると、かなり収量が上がりました。

### ●就農してから今まで、やりがいを感じるのはどんなとき？

**A** 収穫したシイタケを地元のスーパーさんに卸しているのですが、お客様から「肉厚でおいしいシイタケだね」と褒められたときや、品評会で金賞をもらつたときですね。すこくうれしかつたですし、これからもそう言つてもらえる、もつと上の賞を取れるシイタケを作りたいと思うようになりました。

### ●就農してから今まで、大変だと感じるのはどんなとき？

**A** 慣れない作業をしていた最初

モチベーションになるものがあるのは大きい

(渡部 政美会長)



よりいいものを作りたい気持ちが原動力  
(石井 達也さん)



（渡部 政美会長）

## 農地法等の許可申請は余裕をもって！

農地の売買・貸し借り、転用等については、農地法に基づく許可申請、または届出が必要です。

- 許可案件については、毎月5日までに「受理」したものを当該月20日前後に開催する総会で審議します。
- 届出案件については、随時受付、おおむね10日前後で受理通知書を発行します。
- 申請の際には、記載漏れや誤りがないか、添付書類は揃っているかなどをよく確認してから申請してください。
- 申請書、添付書類に不備・不足がありますと、当月分として受理できなくなりますので、事前に窓口でご相談のうえ、余裕をもって申請手続きを行うようお願いします。
- 30a以上の転用許可申請については、一般社団法人福島県農業会議に意見を聞く必要があるため、早めに協議をお願いします。

※締切日以降の申請は、翌月分扱いとなりますのでご注意ください。(詳しくは農業委員会事務局までご相談ください)

簡単

安心

農地を貸したい方、売りたい方は、

農業委員会へご相談ください。



農業委員会では、

- ▶ 適切な借り手・買い手をあっせんします。
- ▶ 農業委員会を通すことにより安心して貸せます。

「正式に農地を貸すと、返してもらえないくなるのでは…」と思われていませんか？

農業経営基盤強化法に基づく手続きでは、貸付期間がくれば確実に農地の権原が戻ります。個人的な契約はトラブルの元になることがありますのでご注意ください。

### 農業委員会事務局は河東町へ移転しています



### 全国農業新聞



読んでみませんか？

農業委員会のネットワーク機構である全国農業会議所が、農業者の視点に立ってお届けする週刊誌です。

お申し込みはお近くの農業委員・農地利用最適化推進委員または農業委員会事務局まで。（毎週金曜日発行：月700円）

農業委員会の総会議事録・活動計画は、ホームページまたは事務局にて閲覧することができます。

アドレス <https://city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/>

検索ワード

会津若松市\_農業委員会

内容についてのお問い合わせは、  
会津若松市農業委員会事務局まで

部員	部員	部員	部員	副部長	部長	会津若松市農業委員会	広報部
田代 春一	斎藤 俊一	大橋 光一	高橋 紀一	二瓶 信正	二瓶 正貴		
新美 一	新光 一	新信 一	新貴 一				
会津若松市農業委員会事務局まで							

今年は農業者にとってより良い一年となるように、頑張りますので、ご協力のほどをよろしくお願いします。

今後も法律の変更のご案内や説明等についても随時お知らせしていきます。

明けましておめでとうございます。昨年は資材・燃料の高騰、高温障害による農作物の不良等、農業者には厳しい一年になったと思われます。さて今号では、農業経営基盤強化促進法の改正に伴う地域計画に係る説明を簡単ではありますが掲載しています。

広報部長 二瓶 正貴

編集後記